

# 阪神タイガース 必勝祈願祭

今年も恒例による必勝祈願祭が三月十九日に執り行われました。



球団役員を始め、今年からタイガースを率いる岡田監督が選手とともに神社に到着し、大勢のファンの歓声を受けながら拝殿に進んでいきました。

昨年までは選手の中にいた監督も、監督席の胡床に着座した姿からは内に秘めたる闘志がひしひしと伝わってくるのを感じました。

星野前監督のもとの前年優勝を引き継いでの今年の戦いぶりは、例年にも増して注目を浴び、他球団のタイガースに対する戦略も必然厳しくなると思われませんが、連覇を願うファンの力強い応援の後押しを受けて二試合二試合全力で戦っていけば自ずと良い結果が得られると思います。選手には怪我をすることなく無事にペナントレースを過ごせるよう、えびす様の御加護をお祈りします。

## INFORMATION お知らせ

### ■えびす信仰資料収集について

「えびす信仰」については古今広汎な研究がなされているものの、それにとつわる資料の収集は神社としてはあまり行なっていないかもしれませんが、このたび「えびす信仰」の啓蒙と歴史を後世に伝承するために、あらゆる資料を収集して纏めていくことにいたしました。



えびす信仰の謎をめぐって 米山俊直著

神楽舞や人形操り等の芸能関係・土人形や面等のおすがた各地のえびす講や十日戎の歴史信仰と風俗・七福神信仰、さらに文書・論文等々種々多様ではありますが、インターネットを活用すればある程度の情報は得られますので、それを足掛かりに進めていければと思います。中には実際に現地に出向かなければ収集出来ない事物もありますので、御当地に伺った節には宜しくお願い致します。

### ■新池にカルガモの子十一羽

五月九日の午後、新池にカルガモ親子がいるのを参拝者が見つけて社務所に知らせてくれました。ささくカメラを手に見に行くと、十cmにも満たない雛が十一羽、親鳥の周りで泳いでいました。平成九年には七羽、十年には十羽と続き、それ以来の御目見えです。おりしも日曜日、親子連れの参拝者が写真を撮ったり餌をあげたりして楽しんでいました。雛のしぐさは心を和ませてくれます。この季節の風物詩になるよう毎年来てくれれば嬉しいのですが、ただ境内には猫やカラスがいるので捕られないかと心配です。



### 編集室から

表紙は七月十日の夏祭り境内を幽玄の世界にいざなう満眸の蠟灯(撮影・登野城弘氏)と、原笙会による女人舞楽の写真を合成しました。



右の写真は神社東側の風景です。かつてアーケードに覆われて軒を連ねていた商店街もアーケードが取り払われ、高層マンションが続々と建設されています。震災以前にはあまり見かけませんでしたが、ここ数年、門前の街並みが日々変化し新しい街作りが着々と進められています。

駅周辺の開発・住人の増加が現実としてある中、今も商店街の活性化に懸命に奮闘している人々とがうまく調和されて、えべっさんの街としてより良い街作りの実現が待たれます。(香)

えびす

NISHINOMIYA EBISU  
平成16年 夏号

西宮えびす平成16年夏号(通巻第21号) 平成16年6月1日発行  
発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-1-7 TEL079813310321 FAX07981331535

編集/総務課広報 印刷/小西印刷所

# 西宮えびす

平成16年

夏号

2004



このたび吉井良隆宮司が勇退

し、四月一日付をもちまして

父祖累代奉仕の西宮神社宮

司を拜命いたしました。

前宮司は昭和二十三年に

当社補宜、同四十五年権宮司

そして同五十三年に宮司となり

五十五年の長きに亘り神明奉仕、斯

界の発展に力を尽くしてまいりました。

また、昭和三十五年より奉職してまいりました吉井貞俊権

宮司も前宮司とともにこの程退任いたしました。両宮司の退

任は世情の不安定なこの時期にあたり、神社にとりましてま

ことに大きなことでありますが、この上は兩名を初めとして

累代宮司の御神威を畏みえびす信仰に捧げられた篤いおもい

を受け継ぎ、更に新しい世代へ継承するため、浅学非才の身

ではございますが職員一同とともに精進いたす所存でございます

ますので、今後共一層のご指導、ご鞭撻の程をよろしく御願

い申し上げます。

目にも鮮やかな新緑の樹々が境内を包み、生命力が満ち溢



れている五月、この好季に今年も一日から十日にかけて太々

神楽祭が盛大且つ厳肅に執り行われ、大勢の氏子、崇敬者の

方々がご参拝に來られました。当社の太々神楽祭の始まりは

寛保年間（一七四一〜四四）と言われております。当時の社

用日誌には「四ツ時講中参詣 神主社役人中神前へ参向 御

膳神酒等献上被致執行 神鏡神剣舞台へ奉成神幸 大々神楽

執行諸参詣如雲霞 各渴仰之思ひヲなし及感涙候事」と初め

ての太々神楽祭の様子を感動的に書き綴っています。それか

ら二百六十余年が経過した今年も、社頭では同じように熱心

に祈りを捧げられる方々の姿が見られました。

世の中の動向は目まぐるしく移り変わっていきます。その

中で生活を営んでいる人々にとり、それは表面的な現象のみ

で次々に判断をせざるをえないシステムとなつてきているよ

うです。緑深き鎮守の森に包まれて、えびす大神様の広く厚

い御神徳に護られて祈りを捧げる時間——それはごく短い時

間であつても、誰しも過去を振り返りそして未来への希望を

こころの中で語り、祈ります——

この貴重な時間を得るためにどうぞ神社へお参りください。

そして二百六十年前の方々が得た時間を共有され、えびす大

神様の御神徳にふれていただきたく願っております。

諸国探訪

中津川西宮神社

【鎮座地】 岐阜県中津川市中津川一七二七番地の二

〔俯瞰図〕



中津川西宮神社は、岐阜県の東端、長野県と境を接する旧中山道の宿場街として大いに繁栄していた中津川宿に在住して盛大な商売を営み、「栄津組」という講を組織していた二五軒の店主達が、商売の神様として全国に厚く信仰されていた

た摂津国（現在の兵庫県）の西宮神社の御分霊を請願して、此の中津川に迎え此の地域の村々、街々に普くその御神徳を蒙ふらしめ、地域経済の発展と住民個々の家内安全、商売繁盛を願わんものと明治二八年一月二六日に栄津組の代表者（間 本右衛門）が本社に赴き、拜戴して現在地に神殿を建立して御鎮座されました。

爾来、百有余年本社「十日えびす祭」に合わせて年の初めの福の神として御神影の頒布をする事とし、一月十日を例祭日と決めて参りました。

この間、世の中の幾多の変遷の中でも一年の休みもなく大祭は斎行され地域住民は申すに及ばず隣接県よりも数多の参拝者引きも切らず、平成七年には御鎮座百年の記念すべき大祭を斎行し記念誌の編纂もすることができましたこと

は無上の喜びであります。

現在のこの神社の繁栄も私共の

先祖が考え、そして力を合わせて

非常な苦難を克服して來られた賜

物であると共に、本社の適切なご

指導によるものであることを肝に

命じ、今後益々の御神徳の発揚を

願ひ乍ら此の由緒ある神社の繁栄の為に奉仕と努力を致します。

中津川の「十日えびす」

大祭は毎年一月十日早朝五時神事を斎行しますが、一番の神札を御迎えた人達が前日の昼頃より待つ居られる。

年の初めの「福の神」を授ける御祭りが「十日えびす」である、との考えから参拝者が大勢來てもらえる雰囲気如何にするか先祖が考えたのは「福引」を併せることとし御鎮座当初から現在まで連続と続いている。

「福引」は一番十六番であるが、各商店からの奉納品も多数あり花を添えている。



# 境内社・住吉社のご案内

末社とは、本社の管理下にある本社との縁故ある小規模神社のことです。西宮神社境内には末社が十二社、他社の末社二社、境外に鎮座する境外末社一社が祀られていますので、これらを御紹介します。

## 西宮神社末社案内図



## 住吉神社位置図



### 1 火産霊神社



祭神 火産霊神  
祭日 八月二十四日  
日本書紀にその神名が見える火の神で、火伏せ・火難除けの神として広く信仰されており、愛宕神社に祀られる迦具土神も火の神であることから愛宕さんとも呼ばれ、三〇〇年前の絵図・書物にも火之神と記されている。

### 2 百太夫神社



祭神 百太夫神 祭日 一月五日  
人形採りや散楽などの芸能に従事する傀儡子を祖神として祀るお社で、平安時代後期の書物「傀儡子記」にも傀儡子が「百神」を祀ると記されている。西宮産所村の傀儡子は、えびす人形を手にえびす舞を行い、えびす信仰を広めていた。天保十年(一八三九)に境内の現在地にお祀りされた。小児の守護神としても信仰されている。

### 3 住吉神社



祭神 住吉大神・西宮大神・速秋津姫大神 祭日 七月十四日  
西宮神社の境外末社としておよそ五〇〇米程南の地に鎮座している。西宮の人当屋金兵衛等が阪神間海上運漕の便を図ろうとして工事を起こすに当たり航海安全の住吉大神・産土の西宮大神・祓除の速秋津姫大神を祀って加護を受けようとして建立され文化二年(一八〇五)勧請された。海上運漕者や漁業者の崇敬が厚い。

### 4 六甲山神社



祭神 菊理姫命 祭日 五月六日  
六甲山頂に祀られていた白山権現が寛政元年(一七九〇)に末社として勧請された。菊理姫命は日本書紀に見える神名で中世以降、白山権現の祭神とされるようになり、白山比咩大神とも云われ、霊峰白山を御神体とされる如く、山を守護する神である。六甲山頂に石宝殿と云う奥宮が鎮座されているのでその方向にむかって建てられている。

### 5 大国主西神社



祭神 大己貴命 少彦名命  
祭日 五月十五日  
元阿弥陀堂という仏堂であったのを享保二十年(一七三五)に二神が勧請された。この神社は平安時代に書かれた延喜式の神名帳にも載せられている由緒深いお社である。大己貴命は大国主神の異称で少彦名命とともに国土造成や農耕、医療を始められたとされている。

### 6 神明神社



祭神 豊受比女神  
祭日 二月初午日  
明治六年、元大阪奉行所西宮勧番所敷地内から移転され稲荷神とも合祀されている。ここでは「お稲荷さん」として多くの信仰を集めている。豊は称美(受)字気は食物の義であり食物を司る神であり、農耕・諸産業また屋敷神などを多義にわたる信仰がある。

### 7 松尾神社



祭神 大山咋神 住吉三前大神・猿田彦命 祭日 四月一日  
寛政二年(一七九〇)に当地の酒造家仲間間から酒造繁栄祈願のため建てられた。酒造の技術を伝えた秦氏の集団が松尾山の神、大山咋神を氏神と仰いだことにより酒造の神となった。当時、樽廻船で酒類を江戸まで運んでいたため航海安全の住吉神と道案内の猿田彦命をお祀りしたと思われる。

### 8 市杵島神社



祭神 市杵島神  
祭日 六月十七日  
市杵島神は宗像大社の三宮のうち辺津宮の祭神で海上安全の神とされ、延期式以降、厳島神社の主神として定着。当地の創建は不明だが貞享二年(一六八二)に画かれた絵図には、池の島の内に弁財天と標した祠が所在されている。

### 9 梅宮神社



祭神 酒解神  
祭日 四月三日  
初めて酒を造った天神地祇に献じた酒造の祖神であります酒解神をお祀りしている。貞享三年(一六八二)の絵図では現在の場所に松の木があり梅ノ宮と標示されているが、天保九年(一八三八)には神木の松に玉垣が見え、嘉永四年(一八五二)に神木の代りに社殿が建てられた。

### 10 庭津火神社



祭神 奥津彦神 奥津比女神  
祭日 九月二十日  
奥津彦神と奥津比女神の神を称して庭津火神といひ、社殿がなく塚の形をした古い姿を残した神社。庭は家庭、火は庭火の意とし、地神・山の神・氏神の性格を有する地産神をお祀りしている。貞享三年(一六八二)の絵図に荒神として標示されている。

### 11 宇賀魂神社



祭神 宇賀御魂命  
祭日 四月九日  
宇賀御魂命は食物の神(こ)に稲の霊とされ、中世以降、宇賀神あるいは宇賀弁財天と習合されるようになる。天和四年(一六八四)の本社旧記によると、文明年間(室町時代)以前の創建であることがうかがえる。

### 12 沖恵美酒神社



祭神 沖恵美酒大神  
祭日 七月十日  
「後崇光印御記」応永二十六年(一四九七)七月二十五日の条に「西宮荒夷社鳴動」と記されているのが、この社の初見で、元は洗役の地にあったが、明治五年に境内に移転した。室町時代の文章にたびたび荒夷社鳴動と記されているように、恵美酒大神の荒御魂をお祀りしている。

### 13 南宮神社



祭神 豊玉姫神・市杵島神(弁財天女)・大山咋神・葦山姫神  
祭日 九月二十日  
西宮神社の境内に有りながら、廣田神社の摂社である。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて廣田神社が有した摂社を称された別宮の根本社で、平安朝時代に京都の貴族の参詣が記録され、室町時代には謡曲「観世」に「是ぞ御神像」として敬よと云う御神像へと「たわわたる」として、甘は銅珠を祀る社と多々ある。

### 14 児社



祭神 児神  
祭日 九月二十日  
南宮社の末社で、平安朝時代の梁塵秘抄と云う謡曲集の中に「南宮の御神に朝日さし児の御神に夕日さし」と当社のごとく「朝日さし夕日さし」と小祠ながら古い歴史がある。

# えびす瓦版

安永六年 (1777)

## 芭蕉の辻の運上金 一部年賦

江戸表西宮支配所社役人宗田越前からの書状によると、例年十二月暮に仙台芭蕉の辻において仙台方面の触頭の世話にて、仮店を出し当社の御神像札をおよそ一万体賦与しており、これにより当社に運上金として毎年十両宛社納しているが、昨年の仙台御城下の火災により、この出店の飾道具等を置いていた旅宿も焼失し、十両の内七両一歩しか社納できなかった。



「芭蕉の辻」の碑 出典：四季の風景

### 昨年の仙台御城下火災の影響



現在の青葉城本丸跡から見た仙台の街並み 出典：俳聖松尾芭蕉・みちのくの足跡

これによる物入りや銭相場の下落の影響で残りの二両一歩は直ちに社納することができないため、特例であるが今後五年間に毎年金二歩ずつ年賦により社納したい旨の願出があった。このたび、本社としてこの窮状を鑑み特別にこの一件を許可することを定め、九月二十八日付にて宗田越前宛に書状をもって連絡した。

## 松原天満宮で 御神忌八七五五年祭

本年は菅原道真公が亡くなられて八七五年来にあたり、各地の天満宮では特別の御神事が執り行われることになっている。当地松原天満宮では六月廿四日廿五日の両日恒例の祭日に併せて八七五年来祭を執行した。

### 神主 有馬へ

神主吉井陸奥守は、病氣療養のため二月十四日より同晦日まで、有馬で入湯治療にあたった。

### 社家東向家跡目相続

このたび、社家斎宮の跡目として立平が相続をし、刑部と改名することとなった。この披露として神主・祝部中・神子・社役人へ振舞いがあった。料理は一汁三菜酒肴吸物とのこと。

## 京都所司代 土井大炊頭殿卒去 廣田社御神事は恒例通り執行

八月十四日に土井大炊頭(利里)殿が卒去されたとの由が勤番所よりもたらされた。これにより十六日は鳴物停止、十七日は相慎むようにとの御触書が示された。十七日、十八日は丁度廣田社御神事の日であるため、如何にすべきかお伺いしたところ御神事は恒例の通り二日間執行、但し御勤番所への届けは十八日の一日のみとするように御指示があった。

藤田伊兵衛世話人にての湯立神楽も滞りなく執行。御勤番所より同心木村殿、河上殿他若者五、六人を召し連れお見廻りにお越しになられた。

## 大坂天満で大火

十二月十九日八ツ時より翌廿日暮れ方まで、曾根崎新地より天満川崎にかけての地域で火災が発生。折悪しく西風が強く殊のほか大火となった。伝え聞ところによると天満宮の神社も炎上すること。早速見舞いのため、社家の東向斎宮が奉行所与力・同心宅へ伺った。



大阪天満宮

## 神主、社役人江戸へ発足

来年正月は五年目毎の江戸城への年頭御礼の年にあたる。このため十一月廿五日より七日間、廣田西宮南宮三社の御神前にて公儀の御祈禱を執行した。その内容は玉體安全、聖寿万々歳、將軍臺下大納言殿堅時連長久子孫繁栄、却而土公百官人等安穩仁萬民安樂、五穀成就。十二月十二日におよそ二週間の行程にて、江戸に向かつて早朝に発足した。

## 諸国配下神職 受領願のため本社へ

当社の諸国配下神職は元文年間(寺社奉行沙汰)により定められた通り、吉田表にて受領することとなっている。これにあたっては先ず領主方の添簡、江戸表西宮支配所の添簡両通を持参の上本社へ参り、確かなる事を確認の上、更に本社より添簡を持たせ上京という手順が定められている。本年は先ず二月に武蔵神奈川より 菊田民部、八月には越後魚沼郡の野村主殿伴右京父子が遙々来社された。右京に渡された免状は次の通りである。

野村右京 西宮太神宮御神像之札賦与之神職令免許処也 公儀御定法并御社法之

通可無相違免許如件 安永六年酉八月 本社神主従五位下陸奥守神 朱印

浄衣差免候書付 野村右京 西宮太神宮勸請之社二おゝて朝夕御神拝并御神事祈禱之節鳥帽子浄衣致着用 清明清浄二可致勤行候 惣体非礼之装束非儀之勤行堅有之間敷候条如件 安永六年酉八月 本社神主従五位下陸奥守神 朱印

尚、勸請は宝曆十三年(一七六三) 着用許可は天明和元年であつた。

## 氏子村方へ饗応

日頃より何かとお世話になっている廣田社氏子村方(廣田・中村・越水・上ヶ原・六軒新田・鷲林寺)役人を廣田御供所に招き饗応した。料理は吸物、小付飯、平(鱧)焼物、酒肴五、六種(たこ・さしみ・牛蒡他)

境内に芝居小屋 九日廿日に濱石才町に住む定芝居小屋主小網屋傳四郎より当社々地を借用し、十月十九日、同廿日及び正月十日の御神事のために芝居を行いたいと申出があり、これを許可した。

元禄七年(一六九四)より現在に至るまで時の宮司によって連綿と記され保存されてきた社用日誌およそ二〇〇冊の全てを、昨年マイクロフィルム・デジタル化した。今後はこれを活用して当社の歴史を顧み、時折々の興味深い事柄を抜粋し、社報で御紹介することに致しました。既に前号でも掲載していますが、本号からは年度毎の日誌の要約に関連文書も参考にして「えびす瓦版」と題してシリーズ化しますので、当時の神社の様子や信仰の歴史、世相などがよく見えるのではないかと考えています。 今回は安永六年の日誌から例年の運上金納付が災害や銭相場の下落で納付が困難を極めたこと、諸国配下神職免状受領の手順について、五年毎の江戸城への年頭御礼の年で江戸に向かったこと、廣田神社神事の前に京都所司代の卒去が勤番所から通知されたが恒例の通り執行されたこと、廣田社が氏子村役人を招き饗応した時の献立等が記されています。 当社に現在保存されている社用日誌